

9. 教育方法の工夫

(東京医療保健大学大学院資料)

教育方法の工夫

- シミュレータを使用し、学生自身が技術のスキルアップを図る。
- 系統的に一貫した教育ができるように、同じ医師が一連の講義―演習―実習に関わるようにしている。
- 臨床現場のリアリティな事象を用いて、授業を展開している。

28

(大阪府立大学大学院資料)

教育方法の工夫

- 医学および薬学の大学院生とともに講義・演習を受ける機会を設け、将来チームとして活動する基盤づくりをしている。
- 講義を行う医師、薬剤師などとともに、がん看護専門看護師が指導者として存在する施設での実習を行い、困難事例に対して専門的な指導を受けられる体制をつくっている。
- 演習・実習後の事例検討を通して、より正確なアセスメントと効果的なケアの実践について、振り返りを行っている。
- フィジカルアセスメントのシミュレーターを用い、学生が技術を磨けるようにしている。
- 知識の習得のため、本学図書センターにおいてがん医療及び看護に関する図書の充実をはかっている。

32

(大分県立看護科学大学大学院資料)

講義・演習・実習の流れ

24

教育上工夫している点

- ・大学付属の病院を持たない大学での養成
講義・演習・実習を担当する医師との
緊密な連携(個々の医療的介入事項に関する
プロトコルの作成 等)
- ・学生が講義等の担当医の勤務先で授業等を受ける
ことによる臨場感の醸成
- ・課題研究担当教員(1名/学生)との密接な連携

32

(兵庫県立大学大学院資料)

**特定の医行為を習得するための
指導体制と評価方法【案】**

指導担当医師/大学教員間の包括的指示内容の確認
病棟において包括的指示対象となる状態をもつ子どものケア内容について、必要となる包括指示の内容とその指示の根拠について必要な知識やガイドライン等について、あらかじめ話し合い、相互理解を深めておく。

指導担当医師との包括的指示内容の確認
受け持ち患者の看護を提供する中で必要となる包括指示の内容とその指示の根拠を理解でき、特定の医行為を行う上での医師の診断・アセスメント内容を理解することになり、自らの判断内容に盛り込むことができる。

特定の医行為が必要な対象を受け持つ
患者を受け持ち直接的に看護ケアを提供する。

必要と判断した特定の医行為の内容の確認と実施
第1段階: 患者を受け持つ中で包括的指示内の特定の医行為を実施する判断をし、医師に確認後実施する。
第2段階: 患者を受け持つ中で包括的指示内の特定の医行為を実施し、報告する。

必要と判断した特定の医行為の評価/指導医師との評価(実習日)
実習当日に担当医師と特定の医行為の判断と提供技術等の振り返りを行い、判断内容の評価を行う

15

○講義・演習・実習の流れの中で、講義は臨床推論のための知識・技術をきっちり押さえ、そして、治療に関する知識・技術を入れる。技術としては、局所麻酔、褥瘡デブリドメント、縫合、抜糸、胃ろうカテーテル交換。この技術を演習で実際に技術として取り込む。それを踏まえて演習では模擬患者、あるいは実際に患者さんに御協力いただいたきシミュレーショントレーニングを行う。そして、実習に移る。

○医行為の技術を修得するためには、演習や実習が不可欠。

10. 評価

(大阪府立大学大学院資料)

実施評価の安全基準

1. 患者の抱える症状の原因・発生機序を説明することができる
2. 患者の抱える症状について説明することができる
3. 医行為: 包括的に指示されている薬剤の中から、適切な薬剤を選択することができる
4. 医行為を行った場合の期待できる結果(ベネフィット)およびデメリットを説明することができる
5. 安全な医行為を実施することができる
6. 実施した医行為に関する評価を行うことができる

31

(大分県立看護科学大学大学院資料)

入学から修了までの過程

【入学】

看護に関する基礎知識の試験

【課題研究および実習以外の科目の
単位取得(80点以上): 1年次～2年次前半】

実習前の能力確認試験(筆記および技術(OSCE))

【実習: 2年次後半】

修了時試験(筆記)

26

実習前能力確認試験(筆記およびOSCE)

目的: 実習(臨床研修医の内科研修に相当)に必要なとされる
包括的健康アセスメントおよび
医療的処置マネジメント
の能力等を確認する

筆記試験(120分) (平成22年7月実施)

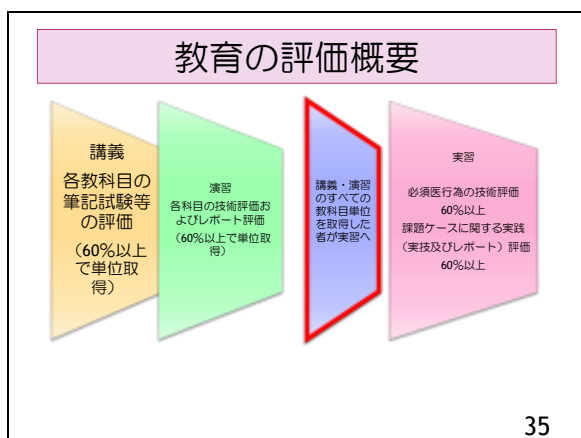
- ・医師の国家試験問題を参考に50問出題
- ・80%以上で合格 5名受験(5名合格)

OSCE(2症例: 1症例あたり30分) (平成22年8月実施)

- ・試験開始の30分前に症例の状態を提示(ペーパー)し、試験では訓練された模擬患者(乗者に依頼)に対して包括的健康アセスメント、必要な処置の判断、記録までを30分間で行う(1人の学生あたり2症例)
- 症例1: 咳症状のある初期診察患者
- 症例2: 糖尿病患者
- ・80～100項目のチェックシートで採点 80%以上で合格
- 5名受験(4名合格)

27

(日本看護協会資料)



○実習前に試験を行い、実習では、実習ごとの単位認定を実施予定。その後、2年時修了時に修了時試験、その後に、第三者の評価を受けるという形で考えている。大学での実習の科目認定に関しては、能力評価をきちんと行っていく予定。

○実習の評価は医師、看護師、教員が行う。到達目標について4段階の評価基準で評価する。実技試験はしていない。修了の評価は、単位修得を評価している。

○各科目の単位取得は、科目試験としている。実習前に能力確認試験で筆記及び技術(OSCE)の試験。実習評価は実習担当医がチェックシートを記載する。最終的に筆記試験の修了時試験を実施予定としている。

【医療現場における看護師の教育・研修】

1. 活躍の場面、期待される役割

(神野委員資料)

クリニカルスペシャリストの業務内容

- ◆ 治療前後の患者情報を的確に分析し、必要な情報を集約して医師にアドバイス
- ◆ 医師の補助的な立場として、入院から退院の患者へのICを含めてフォローアップ
- ◆ 退院後の服薬管理・受診予約・検査予約等の患者のアフターフォロー及び患者管理
- ◆ サテライトクリニックに医師と共に同行し、患者のビフォー&アフターサービス

12

(竹股委員資料)

1. 救急外来でトリアージを行うことにより、貴重な医療資源を効率よく効果的に使用できる。

2. 救急外来における患者の流れを管理できる。

患者の重症化を回避し、早期から健康回復に支援できる。

6

2. 教育・研修対象者

(神野委員資料)

院内認定看護師の認定の必須条件と設置分野

必須条件

- 臨床経験5年以上。
- 当該領域の臨床経験3年以上。
- 将来にわたり当該領域を極める意欲。
- 院内認定看護師教育プログラムを受講し合格。
- クリニカルリーダーⅢ以上でA評価以上。

設置分野

- ◆ ストーマ管理
- ◆ 糖尿病領域
- ◆ 感染管理
- ◆ がん化学療法の看護
- ◆ 褥瘡看護
- ◆ 摂食・嚥下障害看護
- ◆ 胃瘻管理

分野の設置は、院内認定制度の概要を周知した後、看護部職員から公募し委員会の協議を経て決定した

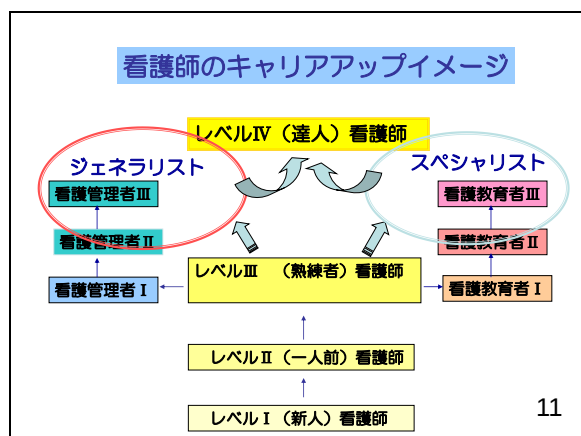
17

看護部のレベル別教育概要と認定看護師研修

教育の目標及びプログラム	
到達目標	レベル別研修
レベルⅣ 1. 看護単位における課題を明確にして、目標を示しながら管理行動が取れる。 2. 看護単位における教育者としての役割が出来る。 3. 管理及び専門看護分野における研究開発を行い変革の推進者となる。	1. 管理的側面 2. 研究的側面 ・院内研修 ・学会派遣 ・ファーストレベル研修
レベルⅢ 1. 専門分野領域での役割モデルとなる。 2. 医療チーム内でリーダーシップを発揮できる。 3. 後輩及び看護学生に対して指導的に関れる。	1. リーダーシップ研修 2. 看護研究(実践・指導編) 3. アサーティブトレーニング ★院内認定看護師研修受講
レベルⅡ 1. 看護過程を踏まえた個別的ケアが出来る。 2. 看護師の役割を果たすことが出来る。 3. 課題に研究的に取り組み、看護実践を振り返ることが出来る。	1. 看護倫理に関する研修 2. 看護過程と看護記録の研修 3. 看護研究(基礎編、実践編)
レベルⅠ 1. 日常生活の援助のための基本的技術・態度を身に付け、ケアが安全に確実 に実践できる。 2. チームメンバーとしての役割を果たすことが出来る。 3. 院内研修・看護実践を通して看護の知識を深める。	1. 基本的看護技術 2. ME機器の研修 3. フォローアップ研修 4. 多量業務シミュレーション研修 5. 採用時研修

22

(竹股委員資料)



キャリア アドバンス システム

全職種	キャリアアップの進め方				教育能力/自己学習能力	リーダーシップ能力	専門職人としての自覚/役割
	1. アセスメント	2. 計画	3. 介入	4. 評価			
レベルⅣ	...	...	...	...	...	...	...
レベルⅢ	...	...	...	...	...	...	...
レベルⅡ	...	...	...	...	...	...	...
レベルⅠ	...	...	...	...	...	...	...

14